

季刊・オーディオ アクセサリー

# Audio Accessory

本当に欲しい! フェイバリットシステムを見つけ出す!

## 注目スピーカー×プリメインアンプ 大スクランブルテスト

“第二次電源ブーム”がついに到来!  
新世代の電源グレードアップ術 &  
いま注目のアイテム徹底検証



特別付録

寺島レコード

CD Sampler



録音対決対談  
寺島靖国×大間知基彰

2017 SPRING

Phile  
web

AA誌の注目記事は  
WEBでも楽しめます!

164



# 圧倒的な存在感を持つ 弩級パワーアンプの 再生能力を検証する

Text by  
**井上千岳**  
Chitake Inoue  
Photo by 田代法生

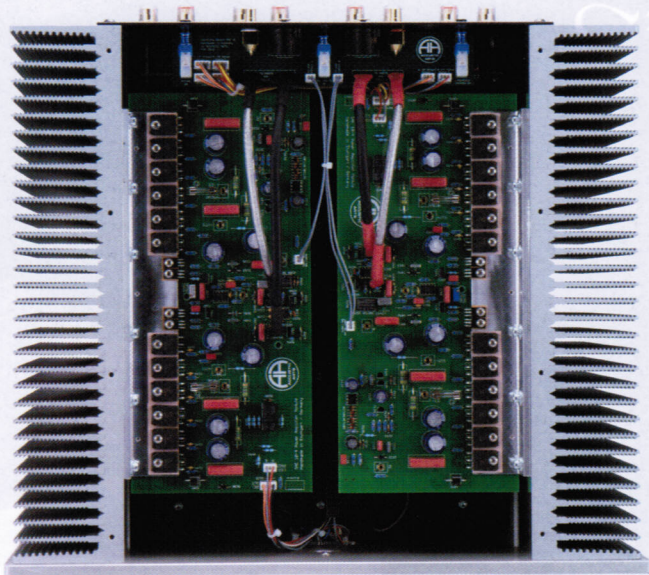
## ACCUSTIC ARTS AMP II - MK 3

パワーアンプ  
¥1,850,000 (税別)

**Profile** : ACCUSTIC ARTS (アコースティック・アーツ) はドイツ SCHUNK AUDIO ENGINEERING (SAE) 社のハイエンドオーディオブランドである。昨年、AMP II - MK 3とMONO IIIのパワーアンプ2モデルを発表し、世界のオーディオファンの注目を集めた。2モデルの大きな特徴は、ダンピング・ファクターを直線化することで、スピーカーの最適なドライブを図っていることだ。ここではステレオパワーアンプAMP II - MK 3の持つ再生能力を検証してみる。

### Specifications

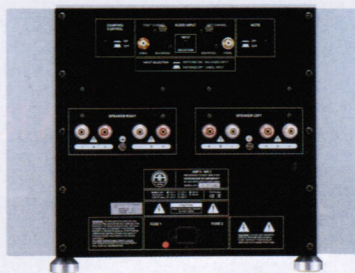
●電圧利得：31.0dB ●電源トランス：2,200 VA(W) ●電源キャパシター：160,000 $\mu$ F ●入カインピーダンス：バランス 20k $\Omega$ ×2, アンバランス 100k $\Omega$  ●出力(THD+N =0.1%)：675W/ch(2 $\Omega$ )、450W/ch(4 $\Omega$ )、275W/ch(8 $\Omega$ ) ●立ち上がり、下がり時間(方形波20kHz, 12Vpp)：3.1 $\mu$ s(4 $\Omega$ ) ●クロストーク：109dB(1kHz) ●高調波歪(THD+N)：0.001%(4 $\Omega$ , 10W) ●SN比：-103dB(ref.6.325V) ●サイズ：482W×350H×430Dmm ●質量：55kg ●取り扱い：(株)ハイ・ファイ・ジャパン



AMP II - MK 3は内部が積層構造になっている。写真は最上段。MOS FETが片チャンネル12個、計24個用いられている。トロイダルトランス2基とフィルター・コンデンサーで構成される電源部はこの下に配置されている。基板には「Handmade in Stuttgart / Germany」の文字とブランドのロゴマークが入れられている



AMP II - MK 3は、シールド効果を最大にするため、筐体のほとんどの部分にアルミニウムが用いられている。フロントパネル下部にメインスイッチが置かれている



AMP II - MK 3のリアパネル。入力端子はRCAとXLRを各1系統。スピーカー出力端子は2系統を持つ。左上のスイッチにより、ダンピング・ファクターが直線化される

### ブランド設立時からの 中核機がパワーアップ

海外製品は国産に比べてどうしても割高になりがちだが、最近では国内でも昔では考えられなかったようなハイエンド機が作られるようになったためか、以前ほどの差はないようだ。場合によっては国産機の方が高額であったりするので、価格の点でもほぼ同列に取り扱って構わないのかもしれない。

アコースティック・アーツはドイツのブランドで、生産も「メイド・イン・ジャーマニー」を堅持している。それでも国産機と価格は互角と云ってよく、ハイエンド・ユーザーにとって有力な選択肢になるべき存在だ。特に強く推奨したいのがAMP II - MK 3である。

アコースティック・アーツの最上位ラインアップであるリファレンス・シリーズには、AMP II / AMP III、MONO II / MONO IIIという4機種のパワーアンプがある。以前はAMP Iというモデルが中堅クラスのトップ・シリーズに存在したが、現在は生産されていない。いずれにしてもAMPがステレオ、MONOがモノラルである。ちなみに他のシリーズにはセパレ

ートアンプはない。

AMP II - MK 3は昨年8月に発売されているが、オリジナルは1997年同社の設立時に登場している。中核的なモデルと云ってよく、本機はその第三世代になる。

実は初代機から19年ほど前に、大きく変わったところはほとんどないのである。「伝統は変えない」というのが同社の考え方で、ではモデルチェンジの意味はどこにあるのかというと、細かな改良を重ねてさらに魅力的なものにすることだという。

実際初期のモデルから音は少しずつ変わった。根本は変えずリファインを重ねたことで、充実の度合いがどんどん深まっていったと思われる。その結果が現在の音なのだが、それについては改めて触れる。

出力は4Ωで450W×2、8Ωでは275W×2と、MK 2よりやや上がった。歪み率も0・0035%から0・0010%とかなりの減少を示している。電源トランスは1,100VAのトロイダル・タイプが2基。つまりデュアルモノということである。ただフィルター・コンデンサーの容量は、250,000μFから160,000μF

へ低減した。興味深い変更である。

出力段は、24個のMOSFETで構成されている。こういった点に特に変化はないようだ。

### ダンピング・ファクターの 最適化を図る機能を搭載

本機で最も大きな特徴は、ダンピング・ファクター切り替えという機能を採用したことである。

ダンピング・ファクターは、スピーカーのインピーダンスとアンプの出力インピーダンスの比として表される。大きいほどスピーカーの逆起電力を吸収して、実効出力を高めることができる。つまり駆動力が増すわけである。

しかし同社によると、この数値は周波数によって変化する。最も高い数値にしておくと、10kHz以上で目に見えて減少し、音質上は必ずしも有利ではない。すなわち高ければいいというわけではないというのがその理論である。

そこで本機に搭載されたダンピング・ファクター切り替え機能は、スイッチを入れるとダンピング・ファクターをやや低く設定し、全体を平坦な特性に維

# 過去に類がないような表現の強さ 濃さといったものに満ちている 音楽の存在感が違うのである

## 使用機材



プリアンプ ACCUSTIC ARTS TUBE PREAMP II-MK2  
(¥1,450,000 / 税別)



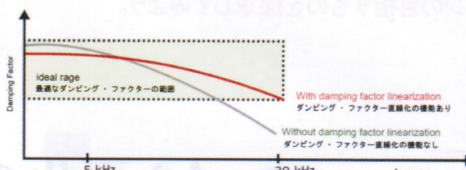
CD/SACDプレーヤー  
ACCUPHASE DP-720  
(¥1,100,000 / 税別)



スピーカーシステム DYNAUDIO  
Contour 60 (¥1,300,000 / ペア、  
税別)



AMP II - MK 3 / MONO IIIの専用ベース(¥100,000 / 税別)。脚部にはスパイクを採用している



ダンピング・ファクター直線化の効果を示すグラフ。直線化機能を使うことで、20kHzまで理想的な範囲でダンピング・ファクターを維持することができる

持する。つまり可聴帯域全体に亘って、最適な範囲に収めることが可能になる。もちろん最高値にしておきたいときはスイッチを切ればよい。

結局駆動力という点にスポットを当てた改良なのだが、このことも含めて今回は本機の力というものを強く実感したのである。

**ホールで実演を聴いているのと同じ感触**

AMP II - MK 3の音は極めてニュートラルである。初代の頃はまだわずかにきらきらしたものが残っていたが、二代目でもそれも払拭され、本機では上から下までまったく無色透明になっている。

新機能のダンピング・ファクター切り替えだが、オンにしておく方がいい。少なくとも好みとしてはそうだ。制動の違いが出てくるのは高域の方だが、低域の駆動力にも伸びが加わっているように思う。こんな力があったのかと感じたのは外でもない

い、普段試聴用になっているオーケストラのCDであった。

尾高忠明 / 札幌交響楽団による『シベリウス 交響曲第6番 第7番』がそれで、ほとんど加工を施していないダイナミック・レンジの広い録音である。ただ編成はそれほど大きくはないため、低音の出方にそれほど強烈なものはない……はずだった。

ところがこのアンプでは鳴り方が違う。コントラバスが意外なほどはつきりと聴こえてくれているのと同じ感触で、深いだけでなく明瞭なのだ。音程もひと回り下まで出ているのかもしれない。凄いいのどと感じた。ほとんど生と同じ、あるいはそれ以上かもしれない。実演でも席が悪ければここまで聴こえないこともある。

生きた低音。スピーカーでこういう音を聴いたのは、ことによると初めてかもしれない。

ジャズも同様だ。それほど音量があるわけではないウッドベースが、くつきりとしたタッチで軽々と動いている。見えるような出方だ。キックドラムも弾け飛ぶように鮮烈で力が強い。このすごい駆動力である。ここまで鳴らすためには、これだけ

のパワーとスピードが必要だったということだ。

## 細かな音の凹凸が深い

バロックのようなソースに、さほどのパワーはいらない。しかしその力が今度は、ディテールの鮮明さに表れるのである。バロック・ヴァイオリンやチェンバロ、バロック・ギターといった古楽器の、微細な響きの変化やタッチの表情が非常に多彩に聴こえる。音数が増えたような、張りりと粘りと艶やかさ。要するに細かな音の凹凸が深いのである。それにはS/Nの高さと歪み率の低さも利いている。そして強力な駆動力が、微小な信号をもくつきりと前面に押し出してしまおうのである。

このほかピアノやヴォーカル、フュージョンといったソースでも、結果は同じであった。どれもこれも過去に類がないような表現の強さ、濃さといったものに満ちている。音楽の存在感が違うのである。

こういう音は国産ハイエンド機とは、また違った力と魅力を感じさせる。ぜひ多くのユーザーに注目して欲しいものである。

# 新しい機能を追加し進化を遂げた アコースティック・アーツ最上位機

Text by 井上千岳  
Chitake Inoue



Accoustic Arts

## TUBE PREAMP II-MK2

真空管プリアンプ  
¥1,450,000(税別)

### Specification

●入力端子:フルバランス・ハイレベル(XLR)×3、アンバランス・ハイレベル(RCA)×2、サラウンド・バイパス(RCA)×1 ●出力端子:フルバランス・ラインアウト(XLR)×2、アンバランス・ラインアウト(RCA)×1、アンバランス・固定(RCA)×1 ●ヘッドフォン出力:6.3mm金属ソケット×1 ●S/N比:-90dB(A weighted) ●真空管:E83CC/12AX7-軍用規格/4回選別とベアリング ●消費電力:約20W、約3.5W(stand-by) ●サイズ:482W×100H×375Dmm ●質量:1.2kg ●取り扱い:株ハイ・ファイ・ジャパン

### Profile

同社のリファレンスシリーズは、パワーアンプ類がすでに数モデルラインアップされているが、本機はそれらにベストマッチするプリアンプである。TUBE DAC IIでも採用されたTube-Hybridのコンセプトに沿っているため、電圧増幅に加えて高度な電流伝送にも対応しBi-Amp駆動を支えている。フロントに位相切り替えのスイッチを搭載するなど旧型機に比べて細かな使い勝手も改良されている。

### 使用機材

●パワーアンプ/アキュフェーズ A-36 ●スピーカーシステム/モニターオーディオ GOLD300

### 試聴ソフト

「アルベニス:入江のざわめき〜スペイン・ピアノ名曲集〜/細川夏子(ピアノ)」/マスター・ミュージック  
「シベリウス 交響曲第6番・第7番/指揮:尾高忠明 札幌交響楽団」/フォンテック

を確保している。出力段はプロ用  
ピーダンスで広帯域低歪率の特性  
本格的な増幅段を備え、高イン  
本の軍用規格双3極管を搭載し  
用ではなく、チャンネルあたり2  
進んでいるのを実感させる。一般  
きたが、本機ではそれが着実に前  
よくあるバッファアンプとしての使

成度が増している。  
ズムの幅が広く、S/Nが向上し  
て汚れっぽさがさらに減少してい  
ることも見逃せない。いっそう完

### DETAILS



3系統のバランス入力とアンバランス入力1系統あり、右側はACとDCの入力端子で、将来的に発売される予定の機器に向けた端子となっている

完成度がさらに高まった  
フラッグシップ・プリアンプ

アコースティック・アーツの最  
上位ラインアップである REFERENCE  
RENCEシリーズのプリアンプ  
である。このシリーズでは昨年ま  
でに MONO II、MONO III、  
AMP II-Mk3などのパワーア  
ンプが発売されているが、本機は  
それらと最良のマッチングが得ら  
れるプリアンプとなる。同社では  
DAコンバーターやプリアンプに  
真空管を使用した Tube Hybrid  
brid テクノロジーを採用して

クラスAである。また各パーツは  
厳しい選別を経て採用。特に真空  
管は4回も選別を行うという。  
本機では位相切り替えスイッ  
チが初めて採用された。これによ  
って他社製品との接続もわかり  
やすくなる。また電圧増幅に加  
えて高度な電流供給能力も持た  
せ、将来のAC接続やDC接続  
を想定した装備も用意されてい  
る。

上から下まで明晰で精密な再  
現性はこれまで通りだが、さらに  
音数が増したのも確かである。ピ  
アノの表情の豊かさ、バロックの  
多彩な響きなどにそれがよく表  
れている。またオーケストラでは  
高低両端での表現の緻密さが印  
象的だ。ジャズも含めてダイナミ



**Hittin' The Note**  
オールマン・ブラザーズ・バンド  
Peach Records  
810347013300(2枚組)  
LP  
¥OPEN



**Requiem For Hell**  
MONO  
Temporary Residence Limited  
TRR273  
LP  
¥OPEN



**Ménage À Trois**  
エンリコ・ピエラヌツィ、アンドレ・チェカレリ、  
ディエゴ・アンペール  
Bonsai Music  
キングインターナショナル  
BON160901  
¥OPEN



**Secular Hymns**

マデリン・ペルー  
【収録曲】  
1. Got You On My Mind  
2. Tango Till They're Sore  
3. The Highway Kind  
4. Everything I Do Gonh Be Funky (from Now On)  
5. If The Sea Was Whiskey ほか  
IMPULSE!  
5701703  
LP  
¥OPEN

今季の  
特選!

田中伊佐資の  
推薦

イギリスの教会でのライブ録音  
ポップスを粹でジャジーに展開

**使用機材**  
●CD / SACDトランスポート：エンテック「P-05」●DAC：エンテック「D-07」●DAC、プリアンプ、チャンネルデバ  
イダー：DEQX「HDP-3」●パワーアンプ：出水電器「ALLION S-100」「ALLION M-300」●スピーカー：JBL、  
BMS製ユニットとウッドワイル製エンクロージャーを使用したオリジナル

マデリン・ペルーの「セキユラー・ヒムズ」はイギリスの教会に1000人ほどの観客を入れたライブ。編成はマデリン（ヴォーカル&ギター）とベース、ギターのトリオ。そんな雰囲気だけで、もう内容が悪いわけがないと想像がつくが、ほんとにそう。ポップスを粹でジャジーに料理した歌が続く。昨年、デビュー20周年を迎えたが、歌手として円熟期を迎えた様子がよく分かる良質なヴォーカル作品に仕上がった。この教会のリヴァーブがあまりにも素晴らしいので、ライブを録ることを決めたらしく、優秀な録音機として推薦できる。本誌の「スピーカー×プリメインアンプ大スクランブルテスト」でもちよっと触れています。オールマン・ブラザーズ・バンドのオリジナル・メンバ、ブッチ・トラックスが今年の1月に亡くなった。がっかりしていたところ、それを追悼するかのように2003年録音の「ピッティン・ザ・ノート」がレコードで復刻された。デレク・トラックスとウォーレン・ヘインズの二大看板ギタリストの競演が聴きもので、こういうクワイイ来る熱い音楽はレコードで聴くのが気分です。MONOは、日本人4人によるインストゥルメンタル・ロック・バンドで毎年150本のワールドツアーをこなしている。9作目に当たる本作も日本のロックシーンにはとても収まりきれないほど独自、そして、パワフルだ。重なり合う轟音ギターに壮大なオーケストラが加わるサウンドによって、なんともいえないカタルシスを味わった。これぞ真の意味でのプログレッシヴなロック。録音はニルヴァーナを手掛けた名匠、ステイヴ・アルビニ。エンリコ・ピエラヌツィの機重機重にも複雑に織り込むピアノ・スタイルが好き。「メナージュ・ア・トロワ」はドビュッシー、サティ、バッハなどの有名クラシック曲を素材にしたトリオ演奏。しかし原曲を完全に咀嚼した超一流のジャズ。この音楽をクラシック・ファンはどう思うのかな。



11人の評論家が選ぶ



**First Color**  
彩  
Ever Green Publishings  
VIVID productions  
DQC-1553  
¥2,500



**WALTZ NO.4**

大橋祐子トリオ  
【収録曲】  
Disc1 ホール録音盤  
Disc2 スタジオ録音盤  
寺島レコード  
ディスクユニオン  
TYR-1054/5  
¥5,500

今季の  
特選!

林 正儀の  
推薦

大橋祐子トリオを特選に  
アナログを含む高音質盤を推薦



**UNCOMPRESSED WORLD**  
Vol. III  
V.A.  
ACOUSTIC ARTS AUDIOPHILE  
RECORDINGS  
ハイファイ・ジャパン  
¥9,800  
180g重量盤



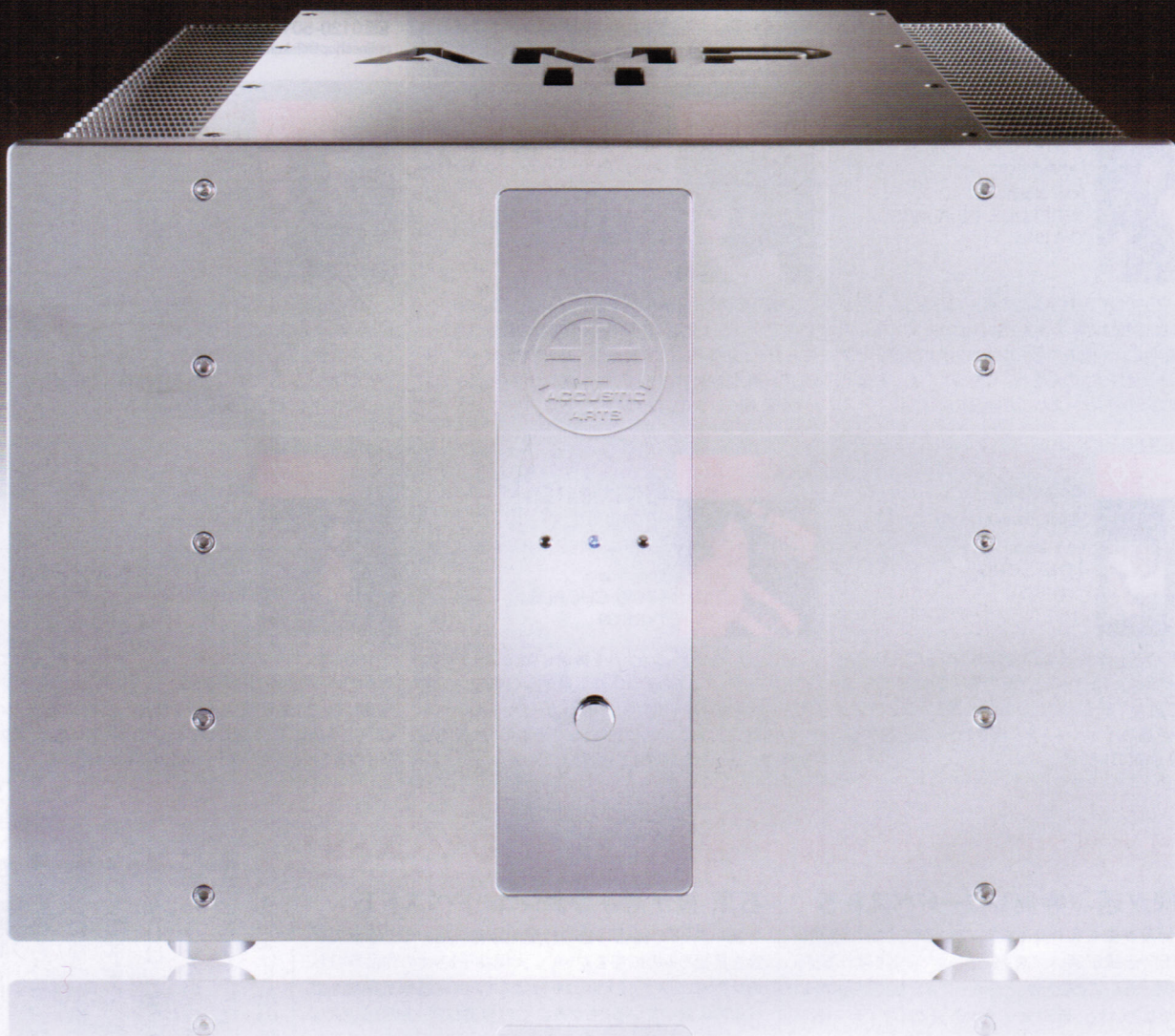
ラモー：歌劇「イポリートとアリシー」  
管弦楽組曲、ベルリオス：幻想交響曲  
ダニエル・ハーディング（指揮）、  
スウェーデン放送交響楽団  
HARMONIAMUNDI  
キングインターナショナル  
KKC-5669  
¥3,000

**使用機材**  
●CDプレーヤー：DENON「DCD-SX1」●ユニバーサルプレーヤー：OPPO「BDP-93 NXE」(SACD、データディスクなど)、パイオニア「BDP-LX88」●プリアンプ：オクターブ「フォノモジュール(特別仕様)」●パワーアンプ：ニューフォ  
ース「リファレンス V9 SE」●スピーカー：モニターオーディオ「PL300」

今季はアナログ盤やポップスを含む幅広いジャンルの良作、高音質ディスクを推薦しよう。アコースティック・アーツは、女性に続いて男性ヴォーカルの豪華2枚組LPをリリース。歌がうまくてスタジオがよく、エンジニアも一流と3拍子揃った内容である。片面に3、4曲。ロックやフュージョン主体だが、ゆとりのカッティングで、ディープに沈む低音と陰影あふれる声の優しさで柔らかさ、広がり味を味わえる。インスト系もキレのよいリズムセクションをベースに、ギターや管もの、ストリングスなどみずみずしく多彩な音色だ。スタジオ音響のよさが伝わる優秀盤である。シンガーソングライター「彩」のファーストアルバムも注目だ。NHKみんなの歌の「七つの海」はご存じだろう。それを含めて12曲とも詞とメロディの美しいオリジナル。アコースティックなスタジオ録音で、名手西本エンジニアの会心作である。ハイレゾ配信でも聴けるが、24bit iit収録で、深みのある、どこまでも広がっていき澄みきった歌声に魅了された。8曲目の「桜雪」は声よし、繊細でナチュラルなギターよしで、桜の季節にナイスマツチ。私のお気に入りである。数聴いた「幻想交響曲」のなかでも、このハーディング指揮盤は、演奏の技量と表現力、サウンドを含めて最近のトップランクだ。セッション録音で捉えたストレートな解釈は、新しい形の「幻想」といふべきだが、音色はややソリッド。分離とハーモニーのバランスが美によく、深いステージが眼前に広がった。硬く激しい打楽器とフランスのエネルギーはジャズのようなスリリングさだ。特選が最後になったが、大橋祐子トリオの2枚組である。これは音質もびきり優秀で、オーディオ的に価値の高い企画賞もの。ホールとスタジオ、それぞれ主張のハッキリした「大間知×寺島」の録音対決が鮮明に味わえる好アルバムだ。



Finest Music Components  
Handmade in Germany



--- 1997年に発表され、アコースティックアーツの顔であるAMP IIIに、定ダンピング・ファクター・テクノロジーを搭載し、AMP II - MK3として、生まれ変わりました。

## Reference Series

AMP II - MK3 Premium dual-mono amplifier ¥1,850,000  
TUBE PREAMP II MK2 Premium tube hybrid preamplifier ¥1,450,000  
TUBE DAC II MK3 Premium tube hybrid DA converter ¥1,450,000  
DRIVE II Premium CD transport ¥1,430,000  
TUBE PHONO II Premium tube hybrid phono preamplifier ¥1,450,000  
[www.accusticarts.com](http://www.accusticarts.com) / [www.hifijapan.co.jp](http://www.hifijapan.co.jp)